

お母ちゃんがかわいそうになった

お母ちゃんは、昔から、いろいろ苦勞している。

お母ちゃんは大正十三年生まれ。

十五の時には、もう、四条河原町にある、

當時としては、フランス風のハイカラな、

喫茶店で働いていた。

他の年上の店の女の人にかわいがられ、

楽しく働いていた。

その中のいいお姉さんの一人は、店の一人息子と

結婚して、今は女主人になっていて、

今でも僕等とは、お付き合いある喫茶店だ。

店にはよく、当時京都帝国大学の学生が来ていた。

若いお母ちゃんも、その学生さんの一人と仲良くなった。

戦争勃発で、その学生さんは兵隊に取られ、

戦争悪化で音信取れず、死んだものとあきらめ、

お母ちゃんは、僕のお父ちゃんと見合いして結婚。

そのお父ちゃんが僕等三人残して早死にして、

今のお父ちゃんと再婚し、末っ子の幹夫が生まれた。

やっと、お金や健康にも恵まれて、

いい生活が出来るようになったと思ったら、

お母ちゃんは胃の手術をして、胃がほとんどない。

今は体が大変弱い、それに、今度は家にはお金がない。

僕等、子供は、今が食べ盛りで、いくらお金があっても足りない

それに頭をいためるお母ちゃんがかわいそうになった。